

令和2年度やまがた木育推進委員会 会議録要旨

- 1 日時 令和2年10月9日（金曜日） 午前10時から11時30分まで
- 2 場所 村山総合支庁402会議室
- 3 出席委員（敬称略） 今村哲史、高橋栄美子、武田久昭、忠鉢春香、舟山功、横山あずさ
- 4 欠席委員（敬称略） 鹿又源州、栗原晃、高見佳澄

5 会議の概要

①開会

②あいさつ

みどり自然課長、今村哲史委員長

③議事

協議事項

(1) 前回委員会での主な意見に対する対応について

【委員からの主な意見】

舟山委員： 県で作成した「やまがたの森林」を先生が忙しい中で理解し指導できるかというところと難しいと思う。森の案内人などを指導者として派遣できればよいと思う。

森の案内人にも講習会が必要。森の仕組みを教えてほしい。

森で活動すれば何でも木育になる。様々な活動プログラムがあるので、それをもとに活動マニュアルを作ってはどうか。

横山委員： やまがた木育の裾野を広げ、新しく木育に取り組む人を増やすには、子育て交流施設を対象に木育を進めてはどうか。乳幼児から大人という流れで木育を進めていくとよい。先にやる気のある団体に声をかけて木育の拠点施設を広めていったらどうか。

今村委員、横山委員、武田委員：

環境企画課で所管する学習支援団体も学校で活動しているところがある。プログラムを一から作るのは大変なので、現在実施されている活動を整理して、乳幼児から大人までの幅広い対象のどの年代に適した活動か考えた方がよいと思う。

また、それぞれのプログラムの目標が、山形県環境教育指針の「つきたい力」のどれに当てはまるのかを考えるとよいと思う。

横山委員： 既存の活動に対し、「つきたい力のうち、こういう力が付きます」と価値づけしてはどうか。

今村委員： あるいは、その価値がわかる人材を養成する。活動を通して、どういう人を育てたいか、参加者にどういう力がついたのか分かる人材を養成する。こうした人材養成はとても大変だが。

講習受講者は、実際に指導者講習会で経験し、実践して、そうした力がつくとわかる。そういった講習の開催は大変だが、人材養成を目標として掲げるのは大切である。

舟山委員： 指導者も活動によってレベルアップする。

武田委員： 学校の活動には必ず目標（「つけたい力」のようなもの）がある。

（２）やまがた木育の取組について

【委員からの主な意見】

今村委員： 木育は学校の授業だと道徳の時間でも実施できるかもしれない。「やまがたの森林」などを使って山形らしい道徳ができるとよい。

横山委員： 県で作成した絵本「もりはすごいなあ」を絆の森づくり活動で使ったが、参加者はみんな森づくり活動を経験していたので、実感をもって読むことができた。

やまがた木育人材養成講座のスタートアップ講座では「やまがたの森林」を使っていてよかったが、森林整備の話までしてほしかった。

木育の「育」の部分、つまり教育の部分はプロを講座に呼んではどうか。みどり自然課は専門家ではないのだから大変だと思う。

舟山委員： 小国に読み聞かせグループがある。絵本「もりはすごいなあ」は人気がある。絵本の第2弾がほしい。

高橋委員： 保育者も森のことを学ばないといけない。教育に関わる人が森に行くことは大事である。若い人は「もりはすごいなあ」の絵本を読んでもイメージがわからない。

（３）副教材「やまがたの森林」及びガイドブックの改訂について

【委員からの主な意見】

中鉢委員： 鶴岡市の森林文化都市や森林の更新の内容（再生林、循環利用）などを副教材に入れてはどうか。

武田委員： 「やまがたの森林」を学校で利用しやすい形に直していくことに賛成。学習指導要領が今年度から変わって、2つ以上の教科を組み合わせで行うことが盛り込まれている。また、先生の負担軽減のため、地域の方に手伝ってもらうことも想定されている。副教材は、DVDで10～15分くらいの内容だと朝学習で流したりもできる。

今井委員： 先生に無理のない範囲で利用できるようにしてほしい。ギガスクール構想で一人一台タブレットが配布されることになったので、youtubeなども活用しやすい。

今村委員： 皆さんから様々な意見を頂き、委員自身も勉強させてもらうような会となった。人材養成の研修はこういう会もよいと思う。

（４）その他

特になし

④その他

⑤閉会